

第1回香美市社会教育委員会議事録

日時 令和7年5月28日(水)9時30分～11時

場所 中央公民館3階視聴覚室

参加者 佐々木委員長、斉藤副委員長、近藤委員、杉本委員、永野委員、信崎委員、濱崎委員、福田委員、浜田教育長職務代理者、小松課長、影山班長、宇根班長

宇根班長

それでは定刻となりましたので、令和7年度第1回香美市社会教育委員会を開会いたします。この度はお忙しい中、香美市社会教育委員会にご出席いただきましてありがとうございます。私は事務局を担当します生涯学習振興課文化班の宇根と申します。よろしくお願いたします。会の開会にあたり、香美市教育長職務代理者の浜田より一言ご挨拶を申し上げます。

浜田教育長代理

おはようございます。職務代理者になってまだ三日目の状態ですので、十分な挨拶もできませんけれど、前任の宮地教育長職務代理者から引き継ぎを受けまして、一年間教育長不在という状態が続いておりまして皆様には大変ご心配をかけております。そういう状況の中で令和7年度第1回香美市社会教育委員会にご臨席を賜り誠にありがとうございます。また、平素は皆様方には本市の社会教育の推進、生涯学習の振興に深いご理解と格別のご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、本市の教育の総合的な指針として学校教育、生涯教育、生涯スポーツ等、教育に関わるすべての施策を体系的に示す第二期香美市教育振興基本計画を昨年3月に策定して一年が経過しました。本計画の進捗状況の確認や検証を行う会議体にはこの社会教育委員会からも構成委員が選任されることになっております。本日の委員会においては、7月に開催予定される教育振興基本計画推進会議に向けて、現在のそしてこれからの社会教育行政について皆様に広い視野と卓越した見識をもってご意見ご提言を頂戴できれば幸いです。そして、教育振興基本計画の基本理念である、郷土を愛し、探究的に学び、未来を創る人づくりの実現に向け、なお一層のご支援を頂けるようよろしくお願いいたします。開会にあたりまして、簡単粗辞ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。

宇根班長

ありがとうございました。

それではまず本会議の成立についてご報告させていただきます。本日は、全委員11名中8名の委員のご出席をいただきまして、過半数の出席がありますので会議成立の定数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

それでは、ここからの議事進行は委員長にお願いしたいと思います。佐々木委員長よろしくお願いいたします。

佐々木委員長

はい、おはようございます。よろしくお願ひいたします。議事に入って行きたいと思ひます。議事 1 番、令和 6 年度の主要事業実績について、事務局から説明をお願ひします。

宇根班長

はい、事務局から説明させていただきます。資料 1 ページをご覧ください。令和 6 年度主要事業実績をご説明させていただきます。

まず、生涯学習振興課ではやなせたかし記念館のリニューアル改修工事を入れております。11 月 5 日から休館しまして、アンパンマンミュージアムでは外壁全面塗装、屋上防水、エレベーターの更新や、一部空調設備の更新、照明の LED 化、広場から館に繋がる連結橋も全面再塗装をしております、東面の外壁は今まで白一色だったのですが、アルミを配してジャイアントだんだん像の背景になるようにリニューアルしています。館内のエレベーターはバイキンマンカラーを配して、こちらは従前のエレベーターも同じような配色でしたが、油圧式からロープ式に変更しております。

詩とメルヘン絵本館も、外壁の傷んだ杉板の洗浄、塗装や取替、屋根板も一部貼り替え、防水工事、断熱材の吹付、床板の再塗装、ギャラリー内の再塗装や、一部ペアガラス化、空調循環ルートの変更もしております。詩とメルヘン絵本館も開館から 28 年が経過しております、ギャラリーとしての機能が低下してきていましたので、今後指定管理していただきますやなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団、先生の貴重な原画も持っているんですけれども、そういった貴重な原画も館内でもっと展示をしていけるように、ギャラリー機能を向上させるものとして断熱効果を上げる工事しております。

ミュージアムとメルヘン館共通しまして、現在放送中の「あんばん」に向け、観光客の方に楽しんでいただけるように展示の更新も一部行っております。アンパンマンミュージアムに入っていたらエントランスの大階段に、やなせ先生が自画像として描かれていたやなせうさぎのキャラクターを設置し、財団の自主事業になりますが階段をデコレーションしています。先生が思い描く絵本の世界を表現しております、先生が頭の中で思い描いたことをペンを持って描いているイメージで、やなせうさぎがパレットを持って座っていて階段にお絵かきベレちゃんという実際にある絵本の絵を階段に配しています。地下の展示物、アンパンマンワールドは全面壁紙を貼り替えています。ジオラマ内のキャラもリペアしたほか、新しく増えたキャラがありますので探して見ていただけたらと思ひます。

またこのリニューアルに際しまして、やなせ記念館ではこれまでやなせ先生が作品の解説をするキャプションというのをあまり好まれない、それよりは来た方に見ていただいてそれぞれの感じるものを持って帰っていただきたいというお考えがあったようで、年譜をおかず、作品のキャプションも極力つけてこなかったのですが、朝ドラをみてやなせ先生のことを深堀したいという方が多くなるのではということで、詩とメルヘン絵本館に大きな年譜パネルで先生の人生を追っていただけるような展示を設置しました。東京のやなせスタジオにある先生が最後に使われていたデスク周りを再現する展示を準備したり、オシャレな先生がいろんなパーティーで着られた衣装を展示するスペースを設けて、先生のことを知っていただける展示を今回の業務で実施しています。また、渋滞対策になるのですが、アンパンマンミュージアムに午前中から 13 時ごろまでの来館が集中する傾向にありま

した。開館当時は館から2kmとか数kmという渋滞が発生して地域の方にご迷惑をかけることがあったということで、今回「あんぱん」に合わせて来館者が増えた際に地域の方の日常生活に支障がないようにということで、来館の時間を分散させて渋滞の緩和、ひいては館内の混雑緩和をして快適に観覧していただけるようにということで、事前予約制の導入とアンパンマンミュージアムと詩とメルヘン館に入館ゲートの導入、合わせてミュージアムから別館まで3館通してWi-Fi環境を整備しました。そうしまして3月29日の12時、ものべすと観光博覧会のオープニングセレモニーと合わせてリニューアルオープンして開館しております。一般開放前に、9:30から市民のお子さん無料招待ということで特別内覧会実施をしまして、地域の子どもさんに無料で来ていただき、楽しんでいただきました。

次のページをご覧ください。やなせたかし記念館は5か月間の休館になりましたが、その間指定管理者の協力を得まして、先生の年譜パネル、ご紹介パネルを作成しました。高知県地産外商公社からお話をいただいてご協力という形で、東京のイトヨーカドー北砂店という郊外にある大きな旗艦店で、高知フェアに合わせて年譜パネル20枚と、ふるさと納税や観光関係のパンフレット、のぼりをお送りして、展示は地産外商公社にさせていただいて8月28日から9月9日まで記念館のPR、香美市のPRということで実施しています。その後、パネルについてご好評いただいたということで、高知フェアは1階の広いスペースでさせていただいていましたが、その後3階の子どもコーナーに移りまして、先生のご紹介パネルだけ引き続き9月10日から10月31日までの約2か月間展示をさせていただきました。パネルが返却されてから「やなせたかしのあゆみ展」として香北支所と本庁舎、物部支所、よってたかって生涯学習フォーラムでパネル展示し、市民の方にも見ていただける機会にしました。香北支所は「やなせさん」というやなせ先生から寄贈いただいたサイン本の紹介展示と同時開催で行いました。休館中の館のPRと合わせて、「あんぱん」放送の事前PRということで実施しておりました。

続きまして、地域日本語教室と香美市芸術祭です。地域日本語教室は今年度からの新規事業になりますが、日本語以外を母国語として来日する外国人の方が、年々増加している状況です。そういった方が生活に必要な日本語を習得するとともに、日本人も外国人も地域の一員として互いに認め合えるように、外国人の方と地域のボランティア、雇用主の方が交流を通じて、相互に文化を理解し、尊重し合えるコミュニティを作っていきたいということで地域日本語教室の開設を昨年目指して準備しておりました。令和6年度は9月からニーズ調査ということで必要性や希望を調査しまして、11月には高知県国際交流協会の方と協力しましてかみーるでベトナム交流会、令和7年2月には高知県中小企業団体中央会さんと協力して、こちらはどちらかという雇用者向けの日本語教室活用推進セミナーということで、周知やPRを兼ねて一緒に実施しておりました。3月にはこの地域日本語教室を実際に支援してもらえるボランティアの方を育成する養成講座を4回実施して、今年度5月から地域日本語教室の事業を始めております。

続きまして、香美市芸術祭でこちらは香美市文化協会が立ち上げる芸術祭実行委員会との協働になりますが、市内の文化・芸術活動の発表や交流のために市内の文化サークルが協力して年に1回開催しています。例年9月から短歌会・俳句会、写真審査会を実施しまして、社交ダンスの発表会や文化展、芸能大会、土佐山田町合唱団定期演奏会ということ

で、秋に毎年実施しています。昨年は美術館の改修工事もありましたので、会場を美術館から中央公民館に移して実施し、昨年同様 630 名来場者の方がいらっしゃいました。

続きまして、探究のまち香美市 よってたかつて生涯学習フォーラムになります。昨年度は Kami プロジェクトアワード 25 団体、ポスターセッション 48 団体、舞台発表 8 団体、体験コーナーや展示・教室・各種講座 24 団体、物品販売・飲食出店 10 団体、その他ドローン教室やペタンク教室、また美術館でのワークショップや図書館での事業などを実施しております。実績としましては、2 月 15 日延べ来場者数は 3,788 人の方に来ていただき開催することができました。

続いては、令和 6 年度スポーツ班の実績になります。昨年は 4 月の体力づくり少年剣道錬成大会に始まりまして、ファイティングドッグス公式戦の土佐山田スタジアムでの開催、野球大会や、香美市の体育大会各種競技、1 月には走り初め、25 日に駅伝大会への参加、2 月には探究ウォーキングは新改地区の古墳ということで実施しております。昨年は雨の影響でいくつか事業が中止になったものがありますが、探究ウォーキングは人気がありましてまた少し涼しくなった頃に、中止になった探究ウォーキングについては申込をして下さった方をまず対象に再度挑戦して実施したいと思っております。

次のページをご覧ください。文化財室の事業となります。令和 6 年度からまちづくり応援基金を活用しながら実施をしております文化財説明板の設置です。昨年度は熊野神社、庚申堂、予岳寺にある山田氏累代の墓、八王子宮、新設を含めて 4 枚を取替設置しました。令和 5 年度からデザインを統一して、統一感のある説明板をということで 9 年度までの計画で実施していきます。6 年度の最後の大きな事業としては、香美市立美術館もリニューアルをしました。令和 6 年度の開館 30 周年に合わせまして、ロビーのクロスや一部カーペットの貼り替えを実施しました。また、収蔵庫が長年の収集や寄贈いただいた作品であふれている状況がありました。棚だけでなく通路や前室にも一部保管する状況が続いておりましたので、作品の保管にもあまり良くないということで、長年検討はしてきたのですが、プラザ八王子の同じフロアにある調理室を美術館の第 2 収蔵庫として使うことができるようになりまして、大きく改修をして収蔵庫としました。かなり収蔵環境が改善されています。今後また作品の収集計画に基づいて、計画的に収集と、寄託があれば協議しながら寄託を受けて適切に保管をしていきたいと考えております。また、昨年は 10 月の完成に合わせて「きれいな絵展」を実施しております。収蔵品展にはなりますが、あまり美術館になじみのない方にも気軽に足を運んでいただけるような美術館にしたいということで企画し、分かりやすく親しみがもてる絵を展示した展覧会にしております。6 年度の主要事業実績としては以上になります。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。令和 6 年度の主要事業実績についてご質問があれば願います。

福田委員

ここで聞いてわかることかわかりませんが、確かに最近外国の方が多くて、うちの周りにも 10 人以上住んでいるかな、あれはどこの国の人がどれくらいいるかとかわかりますか。

宇根班長

ちょっと手元に資料を持ってきてないのですが、最近インドネシア、ベトナム、中国の方が上位を占めています。前は中国の方が多かったようです。

福田委員

多分ベトナムの子たちだと思いますが、「おはよう」とか「こんばんは」という声掛けはするけど、確かに日本語が全然通じないので災害の時とかいろんなことがあるので、こういう日本語教室みたいなのはすごく良いかなと思いながら、そこで市民のみんなといわゆるコミュニティができてくれば、これからも増えていくのであればいいかなと思いました。

宇根班長

今一番多いのはベトナムの方が多くなっているようです。

福田委員

生姜やさんですか、ほとんど。

宇根班長

ニラとか、ネギとか、はい。農業実習生の方が多いです。

佐々木委員長

地域の日本語教室は1回だけですか。

宇根班長

この後、7年度の計画に載せておりますが、今のところ月に1回、毎月1回水曜日の午後6時半から定期的を開催をしていく計画で、まだ5月に1回目の事前交流会として1回目があったところです。17名の方が来て下さっています。今のところボランティアさんも講座を受けて下さって引き続きボランティアに来て下さった方が11名いらっしゃって、初回は賑やかにできました。

佐々木委員長

受け入れ先のご協力はいただいていますか。

宇根班長

個別の受け入れ先がわからないので、基本的には登録されている監理団体さんが県で公開されているのでそちらに告知のお願いとかさせていただいて、農業ネットワークさんは直接ご登録いただいて、また相談にも乗るとは言ってくださっていたので。

佐々木委員長

よってたかったのフォーラムは何回目ですか。

宇根班長

平成30年が第1回で、2回中止になって、5回目です。

佐々木委員長

他に何かありませんか。

永野委員

よってたかって生涯フォーラムの件ですが、多分アンケートも取られたと思いますが、実際香美市の方がどれくらいの割合であったとか、どんなことが興味があったとか、年代層とかはわかっているんですか。

宇根班長

来場者、そうですね、分布のアンケートは取れていません。

永野委員

以前、生涯フォーラムをした時にそういうものが出ていたので、どういうふうに推移しているのか、町内にもっと浸透させないといけないとか、いろんな形のものができてくると思うので、ぜひ続けていただければなということと、思ったことは、父兄は子ども達が出ている時に行って、1時間だけ居てすぐ帰ってしまうような、出たり入ったりの流れが非常に多くて、滞在してそこで何かをするというものを作っていくとだめなのかなと感じました。最後の閉会式になると閑散としてしまっていたので最後まで居られるような、一日滞在型でしっかりそこでよってたかっての香美市をアピールできるようなものを作っていくことが、この生涯フォーラムの一つの大きな柱になってくると思うので、そこを目指していくように今後考えていければと感じました。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。

小松課長

はい、考えてみたいと思います。

斉藤委員

日本語教室についてお聞きしたいのですが、これはどういうきっかけでこの事業が始まったのでしょうか。どなたのご提案、発案だったのでしょうか。

宇根班長

議会で質問があったと記憶しています。元々、定住推進課が国際交流の事業を所管をしていたのですが、ボランティアさんの支援を受けながらやっていく事業にもなるので、それなら生涯学習振興課でということになりました。生涯学習がやっていく地域日本語教室

をどういふふうに進めて行ったらいいだろうということで、高知県の国際交流課や高知県国際交流協会の事業を実施されていた方に相談しながら生涯学習振興課で立ち上げましょうということになりました。

齊藤委員

生涯学習振興課の新しい役割というか、重要な役目を担われているのかなと思います。

宇根班長

そうですね。生涯学習振興課でやるので本当に日本語を教室形式で教えるというよりは、地域で、外国人の方に限りませんが、特に外国人の方は言葉が通じないので、地域に馴染んでいけるように、ボランティアさんも地域の方なので、顔を知って話をすればお互いに壁が無くなって溶け込んでいける、定住に繋がっていくのかな、というところを目指していきたいと考えています。

齊藤委員

ありがとうございます。もう一度ちょっと立ち入ったことをお聞きするかもしれませんが、やなせたかし記念館のリニューアルに関しては、相当な予算がかかったのではと思われるのですが、多くの自治体では社会教育や生涯学習の予算が非常に少なくて困っているところが多い中で、どうやってお金を集められたのか、予算を獲得されたのか、教えていただければ。

宇根班長

香美市も財政が非常に厳しくて、詩とメルヘン絵本館のギャラリー機能の向上というのは、私が生涯学習振興課に来た頃から予算要望をしていたのですが、なかなか予算が付きせずに実現せず、6年度になってしまっていたところではありますが、今回「あんぱん」の放送ということがありまして、やはりアンパンマンミュージアムは中核施設になりますので、リニューアルは市長副市長の決定で予算が付きました。約2億6千万、建物と内部の展示と合わせて2館合わせてになりますが、記念館だけで約2億6千万弱になります。

過疎対策事業債という有利な借入れと、借入れに対する県の地域観光交付金も一部助成があるような形で実現できました。

齊藤委員

ありがとうございます。かなり、生涯学習振興課だけじゃなくて全市的に総力を挙げてという事業なんですね。

宇根班長

そうですね。全体事業費としては、少し前の資料なので概算ですが7億とか8億という金額で、ミュージアムだけでなく周辺一帯、ホテルや公園の遊具、隣接の保健福祉センターの改修や、道の駅、広場前のトイレの改修、その他あんぱん室が実施しています展示も含めてにはなりますが、香美市としてはあとがない状況で思い切って投資をしています。

福田委員

今やらなかったらいつやるという感じですからね。

宇根班長

ここを契機に香美市自体が先生の功績に目を当ててもらって、市外からも注目していただいて、たくさんの方に来ていただきたいという思いで実施しております。

福田委員

どれくらい来ていますか、アンパンマン。

宇根班長

5月4日が一番多く、この日アンパンマンミュージアムは3,000人で来場制限をしたのですが、当日3,257名。3日と5日は2,500名前後の方がおいでしています。4月だけでアンパンマンミュージアムに17,000人ほど来場者がありました。

福田委員

前年比較は？

宇根班長

2.3倍です。平日に来館くださる方が多くなりました。今のツアーは「あんぱん」の放送が始まる前にツアー会社さんが組まれているので、「あんぱん」の影響がすごく大きく出たということではなかったのですが、コロナ禍明けの回復基調にはありましたので、そのことの影響が、切り分けは難しいですが、かなり大幅に増えてはいます。

福田委員

この社会教育委員会でする話じゃないかもしれませんが、大きな意味でまちづくりの核になるし、上手に使ってもらって逆にそこから連携させて、我々の立場であれば、まわれるような香美市に滞在してもらえらるような。ホテルがないのが一番痛いのですがね。もしあれば見るところもいっぱいあると思うのですが、それが一番痛い。

宇根班長

シックスダイアリーもあまり部屋数が多くないですし、もうすこしあればというところは庁内でも協議があったのですが、改修の支援の補助金とか、あんぱん室や商工観光課がいろんな事業の説明会も実施しましたが、なかなかうまく事業に目に見えて繋がっていないところはあるかもしれません。お土産なんかは、いくつか企業さんと合同で開発が進んでできていますが。

近藤委員

もしわかればいいですが、アンパンマン目当てに来てそこから美良布の商店街に回っ

てくれたとか、朴ノ木公園の先生のお墓に行かれた方が増えたとか、そういう流れは増えていきますか。

宇根班長

お墓は、連絡バスを香北福祉センターから 1 日 3 便、財団が運行してしまして乗っていないバスもありましたが 1 便 5 人は乗っておいでしていました。まだなかなか行きたい方にピンポイントで情報をキャッチしてもらうということが難しいなと思います。

福田委員

県とか連携できますか。

宇根班長

県の地域観光課さんとは非常に連携をさせていただいてしまして、県が主催になると県全体という括りにはなりますが、アンパンマンミュージアムと牧野植物園との周遊セット券の開発をしたり、いろんなパンフレット、チラシなどでは館の紹介と香美市の施設の紹介、周遊策というのは県でも対策しています。

福田委員

香美市に龍馬パスポートでチェックするお店はありますか。結構あのデータがでかくて、県の。

宇根班長

ちょっとわかりませんが、美術館は龍馬パスポートに入っていますが、吉井勇記念館は事業委託した際にいろんな連携を休止させていただいています。アンパンマンミュージアムは今回繁忙期「あんぱん」放送期間中は対応が難しいということで、また今後協議させてもらいたいと県へお願いしているということです。

福田委員

あれを上手に使って、実はちょっと分析しようかなと思っていたのですが、ここへメインで見に行った人が次にどこに行ったかというログが取れるわけです。そうすると、今度はそこに行った人に対して、こういうコースで皆さん回っていますよとプッシュできるということも考えていて、そうするとそのまま物部へ足を延ばしてもらって、ぜひ鹿バーガーを食べて帰ってということが連携取れて行くので、そういうデータが取れるようなものが香美市で、社会教育委員会なのでどこまでどうかわかりませんが、いろんなところを見てもらったりとかっていうことを県外の人にもやってもらえるようなことはできるのかなと思いました。ちょっと我々の範囲とは違うかもしれませんが。

浜田教育長代理

本来なら物部の DMO で物部川流域の関係で観光でやるべきことだと思います。それで館のあれが人員削減の関係ですべて読み込み式になっているので、予約制なので、だからパ

スポーツに判を押してもらってというそれにかかる人員をどうするのかなどというのはあるんじゃないかと。

福田委員

逆に予約してもらおうということは、その人たちのデータはあるということですね。

浜田教育長代理

そうですね。そこでデータは取れていると思いますね。

福田委員

結局、教育だけでやろうとするところと、教育以外と絡めてやったほうが教育も含めてどんどん良くなっていくことがいっぱいあるので、もうこういうのが嫌なんです。連携取りながらだったら、一つはその国際交流と日本語教室という部分では社会教育も絡んで、生涯学習も絡んでそういうつながりがどんどん広がっていくと、また新しい切り口というのが出てきて生涯教育を軸にしたまちづくりであったりそういうものにも広がっていくんだろうなと思っていつもこう、こんなことをやっているというのはわかるけど繋がらないんです。毎回言うんですけど。これがもったいなくて。毎回ここに参加させてもらうたびにこれをやってこれだけ人が来ましたという話は聞きます。でもそれを市民が知っているかといえば、市民はだいたい知らない。そこをみんなが連携してそんなことをやっているなら我々もみたいなどころにもっていくのが多分我々や行政の仕事なんだろうなと思うのですが、それがもったいないのでついついこういう話になってしまうのですが。

浜田教育長代理

要は生涯教育も学校教育も人づくりなんですよね。言われていることはまちづくりなんです。どこに主眼を置きながら連携してやっていくかということが大切で、みんな生涯教育も当然いろんなところで関わっている、まちづくりと。だから、そこをちゃんと切り分けながら、どこが主体になりながら、生涯も一緒にやらないといけないねというふうにならないと、なかなか行政というところは縦割りなんです。

福田委員

そうなんです。それが気に入らないんです。

浜田教育長代理

気に入らないから、いろんな意見をあげてもらうのはいいけど、ただその例えば社会教育委員会です。そこはあくまでも人づくり。

福田委員

それで、我々がここ数年ずっと提案している中でまちのみんなは先生なんです、と。子どもたちをまちぐるみで育てましょう、と。そのためにはこのまちにはすごいいろんな活動をしてくれる人がいっぱいいて、趣味のサークルがいっぱいあるわけですよ。それをも

っと子どもたちにも広げていくであるとか、ずっと前から一番わかりやすい話で言っていたのが、畑に看板を立てましょうと、オクラを取っているおじさんに小学生が行って「それは何ですか」「オクラです、オクラはこう食べたら美味しいよ、この時期にこれだけ取れるよ、一本からどれくらい取れるよ」これもお勉強です。それはまちと教育と一緒にやるわけです。そういうのは一つの例ですけれども、いっぱい可能性があって、けれどやっていることは施設の管理であったり、こんなイベントをやりましたであったり、やっぱり閉じてしまうので閉じたらそこまで終わる、もうずっとそれを我々何年も聞いているので、もっともう一步踏み出そうよ、ずっと市長部局ともっと連携してやったらどうだという話はどんどんここで出ています。一個も実現しないから言っているんです。

今回の「あんぱん」が一つの契機になるし、今の日本語教室なんかも契機になるので、もうちょっとこう社会教育含めて、人づくりのまちというのを目指していくのであれば、そのあたりをもう一步踏み出さないといけないのではないかとずっと数年ここでは言わせてもらっています。

浜田教育長代理

わかっていますが、福田委員が言うようになかなか簡単なものではない。一個も実現していないというわけではないです。例えば、永野委員も関係しているようなコミュニティスクールは、地域と学校と一緒にやって、実際に彼は子どもたちを田んぼへ連れて行っていることをさせているし、山田小学校も刈り取って農家といろんなことをやって、よってたかってフォーラムなんかで発表したりいろんなことをやっているわけです。

福田委員

それは、でもここで議論されないですよ。生涯学習じゃない、学校教育となるわけです。でも、逆に言うと永野委員がやってくれているのは学校教育に対して、我々大人たちがアプローチして行って学校教育だけどそれを一緒にやることによつての生涯学習もあるわけです。そこですら切り離されていると僕は思います。

浜田教育長代理

学校教育と社会教育は、はっきり言って生涯教育の中に学校教育がある。しかし、どうしても初等教育とか幼児教育（保育園）含めて、各市町村の教育委員会というところはどうしても自分の管轄、県は高等学校、大学はまた別、となつて扱っているところの関係があるので。どうしてもそこはひとつあると思います。

それともうひとつ。生涯教育の、郷土を愛するもそうだし心をちゃんとしないと生涯教育には繋がっていけないという思いがあるから、そこは切り離しているわけではなくて、成長に伴って社会経験をさせながら、キャリア教育もそう、いろんなことをさせています。だから、我々の大学院はここで言うのであれば、環境が人を育てるので、私もそう思っています。まち全体が子どもを育てる環境とかいろんなことになっていますか、と。施設もそう、いろんなものもそう、それが本来的な生涯教育に繋がる。

福田委員

ではそういう観点からこれらは全部運営されたことを僕らは報告を受けているのですか。そう感じないから言っているんですよ。アンパンマンミュージアムもそうかもしれません、永野委員がやってくれていることが僕が一番やりたかったこと、畑へ連れて行って畑の事、永野委員は一人でやっているのですか。そこへ僕が手伝いに行く、誰が行く？それが我々にも学びです。それが生涯学習です。だから、それを学校教育の観点でそっちでは報告されるかもしれないが、ここでは報告されない。だから僕らから言うと切り離されているように見える。言うように成長の段階に応じてやっていかなければいけないことはいっぱいあります。けれど、我々のこの委員会としては全部報告することもあるわけなので、なんでしょうね、ここではこれをしないといけないからこれ、とかいうのが違うと思います。市長もそのまちづくりで、探究のまちついでいうのをずっと前から言い始めていて、何年も前からよってたかって教育でやっていますが、よってたかって教育になっているのか。探究のまちづくりから始まって、生涯学習フォーラムが始まったわけです。探究したことをみんなで発表し合ひましょう、っていう意味でね。でも、よってたかってで、よってたかってやれているのかという思いがすごくあって、それをやるのが我々の役目とすれば、そういう仕掛けももっと作っていかないといけないが、そこがもうずーっとストレスのまま何年間ですよ。我々ずっといる人間からしてみたら。

浜田教育長代理

私だけ喋ってもいけません、共に思いを喋っているだけのことだから。周囲の住民の意識・・・それだけ言うなら福田出てこいよ、野球部連れて出てこいよ、と。だから自分たちができる範囲でやってもらえたら・・・

福田委員

だからその空気感を醸成するのが行政の仕事でしょう。それは個人の活動だから。個人で協力している人はいると思います。けれど、それは個人に負担を強いているだけだから。そこに行政でバックアップするだとか、ボランティアじゃなくてバイト代を出すだとか、やりようによってはもっとみんな参画できると思います。もちろん、香美市の人は香美市で働いている人より外で働いている人が多いわけだから、時間のこともある、曜日のこともある、そのためにはいろんな仕掛けづくりもしていかなないといけない。そういう環境整備をしてあげないといけないのかなと。連れて出てこいと言うなら連れて出ていくよ、私らも。だけどそれは誰も知らない。

浜田教育長代理

知らなくてもいいこと。結果的に、これをやっているから何かがという・・・

福田委員

それを知ったら参加する人が増えるんじゃないか。

浜田教育長代理

佐々木委員長が困っているので・・・私も 3 日目でこれほど喋らないといけないとは思

いみせんでしたが、思いはあるけれど、その辺は整理をしてからちゃんと要求を立て・・・

福田委員

何年整理をしているのか。何年言い続けているかわからない。

佐々木委員長

ご意見もあるかと思いますが、よってたかって生涯学習フォーラムは目標 2,500 人を大幅に上回る参加の方もおいでいただいていますので、徐々に浸透はしていると思います。またコーディネーターの件は難しいと思いますが、生涯学習と観光課とかまちづくり課とか連携になると当然・・・なってくると思いますので、「あんぱん」放送中で非常にいい機会なので、アンパンマンミュージアム周辺の整備はとても早くやっていただいたと思いますので、中にあんこを入れていただいて、よろしく願いいたします。

時間の都合もありますので、一旦ここで令和 6 年度の主要事業の実績は終えまして、令和 7 年度の主要事業の概要について事務局からお願いします。

宇根班長

それでは令和 7 年度の主要事業の説明をさせていただきます。令和 6 年度リニューアルオープンとご説明しましたやなせたかし記念館ですが、リニューアル後の 3 月 29 日からオープン記念の特別展として「やなせたかし ぼくと詩と絵と人生と」という展覧会を開催しています。これまでアンパンマンミュージアムの 4 階にギャラリーがありますが、そこらは先生がいろいろなキャラを描いてくださった大きな絵がかかっている印象を皆さん持たれているかと思いますが、今回は 4 階のギャラリーを第 1 会場、詩とメルヘン絵本館を第 2 会場、別館を第 3 会場としまして、やなせたかし記念館の全体を回っていただけるような特別展を企画しております。また「あんぱん」世代の心にささるようという事で学芸員が企画してまして、先生の貴重な原画や、私物、奥様との思い出などを 3 館巡っていただいて感じていただける特別展になっています。アンパンマンミュージアムはこれまでのアンパンマンの変遷について先生の原画を通じて描かれ方の違いだったり、最近皆さんがよく目にする「それいけ！アンパンマン」になってくるまでについてもご紹介しております。第 2 会場の詩とメルヘン絵本館は、展示方針で大きく変更してまして、先生の巨大年譜を先生の絵や当時のエピソードを文字や写真で紹介しながら先生の人生を追っていただけるようになっていきます。また、先生のアトリエ、ワークスペースや衣装の展示、「詩とメルヘン」という冊子をサンリオさんとずっと刊行してこられて、先生の 30 年間のライフワークにされています。いろいろな作家さんがその影響を受けて世に出られているということで、財団が所蔵しております「詩とメルヘン」1 号からすべてを展示しております。先生が毎号欠かさず描かれていた絵ということで、ぜひその時代の雰囲気を感じていただきながらご覧いただけたらと思います。第 3 会場は、「愛をうたう詩人 やなせたかし」と題しまして、先生は詩が非常にお好きで、絵本も詩と通じて短い文章で伝えるというところがあるので、そういったところが絵本に活かされていたのではないかとということと、いろんな関係している、それこそ脚本家の中園さんは小さい頃から先生のファンでやり取りしたお手紙を展示させていただいたり、作家さんからメッセージを寄せていただいたものを

パネルにして展示しておりますので、ご覧いただければと思います。また、奥様の暢さんとの思い出を展示したコーナーもありまして、先生が暢さんに直筆で書かれたメッセージを展示しておりますので、ぜひじっくりご覧いただきたいと思っております。また、やなせたかし記念館はリニューアルから料金を改定させていただいたのですが、以前の入館料は800円でしたが、改定以降の入館料金を1,200円にさせていただいておりますが、市民の方は半額になりますので600円で入館できますので、ご予約と同時に免許証を持ってお越しただけたらと思います。

それでは次のページをご覧ください。先程少しご説明させていただきましたが、地域日本語教室、今年度から「かみしにほんごサロン」という名前で5月に事前交流会からスタートしました。14日にこの視聴覚室で自己紹介やグループトーク、外国人の方17名に来ていただいてにぎやかに実施しました。この日、ゲームも準備してお迎えしたのですが、思いがけずたくさんの方がおいでくださって各テーブルともお話が盛り上がったので、それぞれボランティアの方と外国人の方が、自己紹介をしあったり国のことをお話しあったりと1時間半という時間を和やかに終了しました。次回は6月11日水曜日、同じ視聴覚室でおしゃべりを中心にコミュニケーションしながら生活に必要な日本語を勉強してもらうということで、基本的にはグループワークと日本語のレベルチェックテスト、勉強したい方とお話したい方に分かれて、それぞれが求めるものややっていく方式になる予定です。今後は、地域の防災情報だったり生活に必要な情報、病院のかかり方で困ったというお声があったので伝え方とか、管理団体の方がおっしゃっていたのはごみの捨て方で近所の方とトラブルになるので、そういったところと一緒にやっていくように計画しています。毎月1回水曜日の18:30~20:00ということで進めていきます。

続きまして、美術館の展覧会の開催予定です。チラシを一枚入れさせていただいております。6月7日からになりますが、いろんなところでやなせたかし先生顕彰事業ということで「あんぱん」関連の事業を各課が主催しています。美術館は「やなせたかしの時代」ということで、美術館で展示する絵を財団と相談させていただいて先生の絵をお借りするとともに、同じ時代を生きた作家さんをご紹介する展覧会となります。現在準備中で、6月7日から会期中の日曜日には学芸員の解説もありますので、よろしければご覧ください。

続きまして、文化財説明板設置計画で、令和7年度は大川上美良布神社と大栃ムクノキ、他1件を検討中で、基本的に毎年度3~4施設を予定しています。

次に図書館の周辺整備事業としまして、駐車場の整備ですが6年度事業としてご紹介していきまして、3月完成予定にしておりましたが、開発協議に時間がかかっておりましたことと、急遽照明が追加で必要だったり安全対策検討を追加していたりということで、設計がこの5月によりやく終わりました。これから技術支援を受けまして工事の設計に入りますので、11月利用開始としてはいますが、年度内に何とか完成を目指すところまで遅れそうな見込みになっております。43台という計画になっております。平日は本館側の駐車場がたくさんありますので、つながる一むでのイベントの際に鏡野中学校の駐車場を借りるとか周辺で借りていただくということがあったのですが、そういったことが少なくなる見込みです。どうしても安全対策が、技術職と一緒に現地調査をしたり県の担当課に相談するなど、もう少し何かできないかというところを検討しているところです。

続きまして、社会体育施設予約システムですが、4年度から開始していきまして登録団体さ

んは 793 団体に増えております。担当課の所感としてはご自身で予約していただきやすいので、窓口へ来ずにご自宅でお好きな時間に計画ができるようになっていないかなと思っております。施設としましては、今年度佐岡体育館の LED の工事を予定しております。未実施となっておりますので今年度実施してまいります。

続きまして、公民館事業ですが香美市市民大学、香美市市民セミナーやこども教室、人材バンク、貸館事業、また各地区公民館の事業としても実施をしています。メイン会場は香北の基幹集落センター、香美市立中央公民館へライブ配信も計画しております。7 年度の大きな事業としましては以上になります。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。7 年度の主要事業につきまして説明をいただきました。何かご質問はありませんか。

永野委員

中央公民館事業で、以前からのまちの先生ですけれども進捗状況を教えてください。

小松課長

進捗としての変化はあまりないと聞いております。登録して下さる方がぼつぼついるようですが、なかなか大きく増えるということはないようです。できるだけ登録をお願いしていきたいと思います。

永野委員

まちの先生の基準、ハードルがすごく高いという感じを市民の方が受けているようで、お金をもらってやる形とか、いろんな形を思っている方がいらっしゃって、そこまで手を付けることが私はできないという方が結構いらっしゃいます。みんなと一緒にやりたいとかこうやってやりたいと言われる方も結構いらっしゃるので、もうちょっとまちの先生自体のレベルを下げるという考え方はないですか。お聞きすると、何か絶対教えなきゃいけないとか、何か絶対それに対して、お金をもらってやるまでのことはないという感覚の方が非常に多くて、そこまでのレベルではないよという話はしているのですが、やはりそういう受け答えをされる方が多いので。

小松課長

そんなに高く気持ちをもっていただかなくても気軽にやっていただけるような仕組みを検討していきたいと思います。

永野委員

ぜひそうしていただけると。運営協議会に入らせてもらって鏡野校区は 5 小 1 中で、それぞれに小学校でミシンを教えたり、一緒に朝ご飯を作ったり、いろいろしてくれるボランティアの方がいらっしゃるですけど、その方々に「まちの先生になってもう少し規模を広げてみないか」「小学校単位でやっていたのを 5 つの小学校を集めてやってみないか」

と話をしたら、「そこまでやると度を越してがつつりやらないといけなくなるのでは」と思われる方が非常に多くて、そこまではできないから今は小学校規模でやらせてもらおうと尻込みされる方が多いです。まちの先生が最初に出た時の感覚が非常に大きいらしくて、コミュニティで学校で協力してくれる方もちょっと敷居が高いという感じを受けている方が多いので、ぜひそこはもう一度アプローチの方法を変えていただければ、もうちょっと増えてくるのではないかなと思うので、ぜひ推進していただきたい。前から言っているように、まちの先生のバッジくらい付けて、どこでもいいからそんなことができるというものにしていったほうが浸透しやすいし、皆さんがそれに参加しやすいということになってくるのではないかと感じています。

小松課長

工夫をしてみます。

濱崎委員

それに付随してですが、これって人材バンクというのは銀行と同じように預けっぱなしでは何の意味もないですよ。そこにやっぱりコーディネートしていく人が絶対必要。僕も人材バンクを10年以上やりましたが、バンクには何百人も登録してくれるけれど、実際にその人たちが活動できる場所を提供していく人がいないと、人材バンクは意味がない。ある意味ではコーディネーターが核。こういう講師の先生がいらっしゃいますよと、どうですかというコーディネーターが絶対必要なんです、人材バンクには。これが今はない。だから広がらないんです。

小松課長

公民館の事務局で、こういうところが情報を一番もっているのではないかとこのところがあると思いますのでそこへ、情報提供ができるように。

濱崎委員

だから足を運ばないとだめです。公民館で来る人を待っている、誰かがこういう講座をやってくれと言ってくるのを待っているのでは広がらない。やっぱり営業していかないとだめです。こういう講座をやる人がいますから、ぜひ使ってくださいと営業していかないと人材バンクは機能しない。

小松課長

わかりました。営業もまた検討していきます。

永野委員

今、一緒に学童のほうもさせていただいていますが、学童には夏休みに「私たちこんなことやっていますからやらせてくれませんか」という方が結構来られます。「子どもたちにこうやって教えた」と。その方々はまちの先生に登録されていないです。その方々は自分たちがやっていることを広めていきたいし、みんなに分かってもらいたいという気持ち

があって、ついこの間も来られて「じゃあ夏休みに一緒にやりましょう」ということでやられる方も多いので、結構香美市民の方はそういう方がすごく多いです。学童関係は小学校だからまた別なんでしょうが、そんな方々が 8 月の休みの間に週に一回でもずっと回れるぐらいの人たちが来てくれるぐらい、皆さんが言っている方がいらっしやるので、そういう方々をしっかりと吸い上げて、逆にそれをまた小学校へ返す、もしくは市民に返すという形を取れる、中核的な人がいないとなかなかそれを活用できないし、皆さんの意識が変わっていかないということがあるので、ぜひそこを。人件費がかかろうがそういうことをしていくことが生涯教育を広めていける一番の段階になってくると思います。それと合わせてスポーツ協会と文化協会さんがあるので、そういう方々もしっかりと繋がっていけるような体制を作れる方をコーディネーターとして置くことで、市民の方々と繋がっていいのではないかとすごく感じています。

福田委員

何人いますか、小学校単位ごとに。前にこの話のきっかけになった、香長小学校の校長先生が来てくれていた時に「うちだけでも何十人もいます」ということで全部足したらすごい数になるねという話になったじゃないですか。それをそのまま放り込めばいいと。その仕組みをどう作ろうかという議論をずっとしていましたが、今でも学校ごとに何十人ずついるんですね。

永野委員

おります、おります。だってこの前新聞にも載っていた、香長小学校の土俵のあれもすべて保存会がいて市民がそこに対して学校でやる。香長小もいろんな会があるので、すでにいろんなことで各学校がもっています。片地小学校だったらいろんな関わりをしてくれる方を 120~130 人を既に抱えているので、ただその方々がまちの先生になるかという絶対になりません。敷居が高いという感覚があります。自営業をされている方々というのは、自分がやっていることにしっかりと誇りをもってやっているのを子どもたちに伝えたいといって、直接学校へ来て、「これがあるけどどうか」という話をされる方もいらっしやいます。直接学童へ来られたりという方もいます。やはりせっかく生涯教育として考えていく上では、それをしっかりと活用させていただいて、香美市で何か事が起こっていく、何かいろんなことができている、それが少人数単位でも構わないが、どんどん広がっていくことが一番いいと感じます。そのために最低でも一人はそれに対して注力できる人間を入れていくことが大事だと感じます。

佐々木委員長

はい、またご検討をよろしくお願いします。他に何か、信崎先生、ご意見はありませんか。

信崎委員

すみません、遅れて来まして。日本語教室のところで防災情報の見方があって、すごくいいなと思いました。南海地震でいろいろ言われる中で、どこに行けばその情報を得られ

るかとか、日本語だけじゃない表記のものがあるか、今、Google 翻訳もありますが、情報がどこに行けば手に入るかわからない方がいる。バングラデシュがいたり、フィリピンがいたり、カナダ、英語圏は比較的ありますが、ここに行けばこんな情報がある、最低 3 か国語くらいのもので、例えば庁舎の 1 階には広報をご自由にお取りくださいのコーナーがあったりしますよね。あるいはインフォメーションで、必要なものをいつでも入手できるコーナーがある、そこに生涯学習に関するようなリーフレットやパンフレットがあつて興味がある人はそこにもアタックがかけられるようなコーナーを設置出来たらいいんじゃないかなと。単なる案内に終わらずにもうちょっと充実していくというか、そういう工夫もあるといいのかなと思いました。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。具体的なお意見もいただきましたので、次に杉本委員、何かございましたらお願いします。

杉本委員

私は元へ戻ってしまうからあれですが、香美市人材バンクですが、私は香長小学校と関係があつて 2 時間ほどの話を何年かしていたことがあります、他でやるかと言われると私はやりたくないです。それは何故かという、香長小学校でぐるぐるっと回って私のところへ来たから、引き受けたのですが、ではあつちでやったからこっちでもやってくれと言われたらできません、正直に言って。各学校でという話であれば学校のこういうことをやってほしいんだ、今こういう人がやってくれているけれどももう高齢化してだんだん難しくなりつつあるので誰かいませんかと、そういうものがあつてそれを見て、私やってみようかというのならいいけれど、と私は思います。正直に言って、今子どもと接する機会なんて全然ないし、小学校、中学校、高校、大学も含めて、そこで何が求められているかは一切わからない。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。様々なお意見もいただきました。具体的なお意見もありましたので、ぜひまた実施の際には検討いただきたいと思います。時間の都合もありますので、議事の(3)その他について事務局からお願いします。特にありませんか。

永野委員

社会教育じゃないかもしれませんが、鏡野中学校の運営協議会で話が出ていたのですが、部活動の地域移行という話が全国で進んでいます。香美市でも地域移行に関して検討委員会がなされたりしていますが、お聞きしていると途中で頓挫してしまつて最終的な方向性であつたりそういうものが見えてないということと、学校自体も子どもたちの人数が減ってきて学校の先生の数も減ってきているわけです。その中で部活の再編なども大きな議題として上がってきているわけです。部活に特化した先生が来るわけでもなく、全然別の先生が顧問になってやらなきゃいけないという部分で弊害があつたり、先生方の疲弊も非常に大きいですし、なおかつ学校教育班としては業務の平準化というのが求められて弊害が

出てきているので、香美市として民営化というか地域移行というのはどのように考えられているのかお聞きできれば、もしそれが進んでいなければどのようにしていく考えがあるのか教えていただきたいです。

佐々木委員長

はい、影山班長どうぞ。

影山班長

令和4年から部活動の地域移行の担当をしているスポーツ班の影山です。令和4年、5年と部活動地域移行の検討委員会を立ち上げて、中学校のPTAの関係者と各中学校の校長先生をお呼びしてお話しましたが、香美市としては国が目指すような地域移行はなかなか現実問題として無理であろうということは話し合いの中で出てきております。

話が頓挫したということではありましたけれども、令和4年、5年の最後に香美市は香美市なりの地域移行のあり方を目指すしかないのではないかと。国がやりなさいということとはとてもできないという話にはなっております。その中で、元々の話が、先生の負担を軽減するということでしたので、各学校を回って先生の意見を聞いて部活動のどうしても手が足りないところに外部から人を派遣するというのならできるということで、6年7年、今年度も足りない部活動に対して人を派遣する事業をしております。実際、6年度は吹奏楽と卓球について人を派遣しておりました。その方に謝金をお支払いしています。7年度は卓球とバドミントン、吹奏楽、ソフトテニスの4つについて同じようなことをしております。鏡野中学校だけではなく、香北や物部も同じようにヒアリングをした上で、足りないところに人を配置してということをしております。今後、このまま同じようなことを続けていくのかどうかというのは、まだ不確定なところがありますけれども。なかなか先生の異動もあり、その年度が明けてからじゃないと、どこが足りないとかそういうのも話し合うのは難しいので、それを聞いてからの派遣にはなってしまいます。

永野委員

もちろんそれもお聞きしています。今年補助金が減らされるという経緯があるという話も聞いたので、結局補助金ありきでそれをしないといけないのは非常に怖いこともありますし、なおかつそのことが保護者に一切伝わっていません。クラブの地域移行というのは新聞では騒がれていますけれど、実際香美市はこうしていくという話は全然されていません。なので、保護者の方々は頓挫して香美市はできないからどうしていくの、子どもたちの部活に関してどうするの。高知市は鏡野中学校から出て行った先生が、南海中学校の野球部の（指導を？）民間に地域移行されています。新聞にも出ていました。そうすると、地域移行するには多大なお金と人材と場所とってということで非常に大変だと、この間お会いした時にお話をさせてもらったのですが、今四苦八苦しながらやっていると、僕がいなくなった後はどうしていくか考えないといけないと言われていました。香美市として（方向性が？）出ているのであれば、中学校のPTAの方々には今の香美市のやり方を、こうしていますと伝えていかないと、学校の先生からは言いにくいと思います。世代の流れとして、部活動の地域移行という話は新聞で何度も書かれて、保護者の方々は地域移行するな

らそれにお金はいくらかかるのか、部費ってどうなるんだろう、とかいろんなことを思われます。例えば、鏡野中学校の水泳部は香北のB&Gがなくなったので、水泳をするなら鏡野中学校へ行けばできると思って変わってこられた方もいます。けれど実際にはそれを教える先生がいないので最終的に水泳部は部員募集を打ち切りますという形を取ったという話も出ています。そうすると、子どもたちにやりたいことがあっても、その芽をつんでしまっている状態が学校としては非常に心苦しいけれども現状それができないという。ではそれに対して地域移行というものが出ていたら、そんなことをしてくれるの、という話も出ていました。誰かが地域でやってくれないかと出ていましたが、それに対しても安全面などの部分を考えて時にどうしていいのか、先生方も指導者としてクラブを学校の一部として思っているの、そこに対してどう関われるかとか、地域の方にはどう関わってもらうかも精査していかないといけないので難しいところもあり口に出せないことが多いです、という話もされていた。これは社会教育ではないかもしれませんが、今後地域移行がないのであればそこはしっかり打ち出してあげないと、子育てをする保護者の方々がどうしたらいいか分からないです。僕が一番思っているのは、僕たち社会教育委員はゆくゆくは納税義務者を作らないといけません。そうすると小中学校の子どもたちに、香美市で育てよかったねと、今度は香美市で子育てしたいねと思ってもらえる人たちを増やしたらいいと思います。一人で県外に出て行って帰って構わないです。けれど帰って来るときには嫁さんや子どもを連れて帰って来てくれるとそれだけ納税義務者が増えます。それくらいのことをしていくのが僕たち社会教育委員の役目かなと、僕は思っています。地域移行であったり、香美市はどうしていくのか、熊本はしっかり出ましたね「やりません」と。香美市はどうしていくのかを出したほうがいいと思うので、ぜひそこは検討していただければと思います。

浜田教育長代理

実際この問題は、教員の働き方改革からいろんな都道府県の人口の多いところも少ないところも巻き込んでやっているわけです。熊本はやらない、政令都市になろうかという大きなところ、神戸みたいにすべて移しますというところもあります。この周辺の主要三市を見ても人と施設をどうしていくかという問題があって、人口25,000人の香美市で、香南市であれば青少年センターなどあり、南国市も拠点がありますが、なかなかそこで社会教育的な活動をやっているの、人材も割合いるかなと思いますが、香美市の場合は、社会教育施設予約システムにあるように学校の施設を使いながら社会教育をやっている現状で、ほかの二市に比べるとちょっと弱い（施設が）環境にあります。そういった中で当然環境整備も大切ですが社会教育も含めてできることからやっていくしかない、全くやらないといった場合には教員が顧問をしないとイケなくなるので、それもどうなのかなと。その辺のことを踏まえながらソフト面もハード面も議論しながら継続的に、できるだけ子どもたちが成長できる環境、学校も無理がない環境を、それぞれが知恵を出しながらやっていくしかないのかなと感じています。だから単に支援員を派遣したということではなくて顧問の権限、土日もずっと付いてないといけないとか、それであれば教員の土日がなくなるので、そういうことも踏まえて、学校教育と生涯教育の両方が話し合いながらやっていくしかないのかと、組織的な問題も考えなくちゃいけないと個人的には思います。

福田委員

今までの会議の中で、先生たちに入ってもらってやった中で「できませんね」という結論に至った一番の理由は何でしたか。

影山班長

話し合いをした上で、なかなかこうしようという、皆さんいろんな意見がありますので、まとまらなかったんですけれども、できないというのは保護者の不安と施設がないのと受け皿がない、部活は16時以降からになるのでできる人も仕事を退職された方とか限られた方になるということと、地域の方が入ることによって先生が入ることと安心感が違うというか、顔を知っている先生が教えて下さると、どこの誰か分からない方が来て教えるのは不安という方もいらっしゃいました。いろんな意見があって香美市は難しいという話に結局はなりました。南国市が先進的にやっていますが、あそこはまほろば体育センターがあり、そこには職員さんもいて、それこそできることからということで、香長中学校ですかね、一部の中学校で地域移行というのが始まっておりますが、そこは条件が整ったうえで国のお金をもらいつつそういうことができているということです。そこと比べても、香美市は施設もない、人は探せばいるかもしれませんが人もいないということで、ちょっと難しいねという話にいたったところです。

福田委員

それこそまほろばみたいなスポーツクラブも含めて、香美市も昔はクラブカミングというスポーツも作ったんですけど、震災が来て補助金が打ち切られた途端に金がないから解散しますと、僕は委員、そのメンバーだったんですけどそういうことになりました。それを利用するのは確かに、そういう組織があってその組織に委託するという形を取れば楽だと思んですけど、そうじゃなければ土日とかも先生が付いて野球の試合をさせている、うちの部員に「教えてきてあげて」ということもできなくはないと思います。昔、バドミントン部が、うちはバドミントン部は教えに来ていました。楠目だったと思いますが、卓球部が行ってみたいやっていたので。でもその子らに責任を取れといってもそれはできないので、怪しい人でないのは間違いないですが、そこに顧問の先生が付かないといけないということなら、それは確かにハードルが高いかもしれませんが、何かやれそうな気がするなというのが、うちの学生には先生になりたい子もいるので、自分がクラブをやっていたら教えられる子もいてマッチするのになと思う時もあります。

影山班長

実際お話もあって、工科大の方に来てもらってという、頭の中にもあるのですが、やはり保護者としたら先生に付いていただいて、というのがあります。

福田委員

それが大きいんですね。

永野委員

多分それは 5 年度までの話だと思います。僕が言うのは、できればそこで止めずにこういうことってうやむやになって終わってしまっている部分があって、それがみんなに伝わっていないのであれば継続審議で続けて欲しいという話です。教育委員会として地域移行であったり、社会教育として生涯教育の考え方としてスポーツの振興であったり文化の振興であったりということが続いていくためにも、地域移行の部分をもう一度審議の対象としてやっていただきたいと思います。今までは僕も初年度は入らせていただきました。その時は、中学校の先生と PTA と教育委員会とで、工科大であったり山高であったりそういう方たちは入っていなかったんで、できればそういう方たちにも入っていただいて移行はできないかもしれないが、講師として派遣することはできるとか、そうすれば試合がない時の練習であれば立ち会って、その間先生は自分の仕事ができるとか、そういうシステムじゃないですが、ある程度カリキュラム作っていくことが大事だと思います。できれば教育委員会としてもう一度進めてもらえたらなと感じています。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。また影山班長にニーズに応じて徐々にやっているということですので、また考えていただいて広げていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。なかなか宣伝が行政は下手なので「こういうことをやっています」というのがなかなか市民の方には伝わっていないところが多いかと思います。また広報等も通じて市民の方に知っていただくということも必要だと思いますのでよろしく願いいたします。時間が過ぎましたので以上で議事を終わらせていただきます。次のその他へ、事務局からお願いします。

宇根班長

その他としてはございません。それでは以上をもちまして令和 7 年度香美市社会教育委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

(閉会)